

2019年6月11日

ブラジル連邦議会下院
ブラジル日本移民111周年記念式典

ブラジル日本商工会議所会頭 村田 俊典

西森ルイス議員様、キム・カタギリ議員様、ジュリア・ルシー議員様、山田彰在ブラジル日本国特命全権大使閣下、ご来場の皆様。

本日は「ブラジル日本移民111周年式典」にお招き頂き誠に有難うございました。また、ブラジル日本商工会議所のご紹介や日伯経済関係についてスピーチの機会を与えて頂いたき、厚く御礼申し上げます。

日本移民の皆様におかれましては、ブラジル国内で日本企業がここまで成長することが出来たのも、ひとえにこの国でリスペクトされ歴史を作り上げてきた日系社会の皆様のおかげと感謝の念につきません。この記念すべきお祝いの日に参加出来ることをとても光栄に感じております。

【1】 ブラジル日本商工会議所

1) 会議所の沿革

まずはじめに、今日までの会議所の歴史を少し振り返ってみますと、当会議所の起源は1926年に設立され、今年には93年目にあたります。

2) 会員数と組織構成

2019年現在の法人会員数は350社を擁し、そのうち約220社が日本からの進出企業であります。

当会議所には業種・業界別に、トヨタ、ホンダをはじめとした自動車、三菱重工、日本製鉄などの機械金属、ソニーやパナソニックが所属する電機・情報通信、味の素などの食品、化学品、等の10部会があります。

また、日伯経済交流促進、政策対話、企画戦略、日伯法律等からなる計12委員会があります。

3) 会議所の活動と成果

また、日伯の経済交流の促進と会員のビジネスの発展に向け、委員会・部会を中心に情報提供、人的交流、政府提言の3つの項目を柱として活動を展開しています。

【2】 日伯経済関係の変遷

次に、過去60年間の日伯経済の歴史について簡単に触れさせていただきます。

日本企業のブラジル進出は戦後間もない1950年代に始まります。

日伯合同大型プロジェクトが始動した時代であり銀行、商社、紡績、製鉄、造船、自動車など数十社が進出しました。

日本は主にアルブラス（アルミ精錬）、製鉄、カラジャス鉄鉱山開発、セニブラ（紙パルプ製造 77年）、日伯セラード農業開発協力事業（PRODECER 79年）などの国家プロ

ジェクトの大型経済協力案件に大きく協力・貢献しました。

2004年、日本から小泉首相が来伯、また2005年にルーラ大統領が訪日、2006年6月、地デジ導入に日本方式が採用（日伯方式）され、南米やアフリカ諸国の一部に展開、日伯関係に新たな兆候が訪れました。

その後10年の空白期間を経て、2014年8月、安倍現総理が訪伯、また、2016年10月はテメル大統領が訪日。

今年1月に就任しましたボルソナーロ大統領も大変な親日家であり、また自由貿易の方針を打ち出す中、今後の日伯経済関係強化に期待が高っております。

日本移民と日本企業を広く受け入れてきたこのブラジルという国の発展の一助となるよう、我々商工会議所も貢献して参りたいと思っております。

【3】 日伯経済交流促進に向けた会議所の活動

さて先に述べましたように、我々商工会議所はビジネス環境整備を目指した政府提言を行い、労働、課税／通関、産業競争力強化、インフラ分野のワーキンググループを立ち上げ、いわゆる『ブラジルコスト』に関わるテーマについてその活動に取り組んで参りました。

ブラジル国民の生活向上を目指し現在ブラジル政府が取り組む年金改革、税制改革の進展に大きな期待を持ちながらその動向を見守っております。当然ながらこれらの改革はビジネス環境の改善にも大きく関わるものと思っております。

また忘れてならないのは、数々の課題の中でも最も難易度の高い課題の一つであった労働法の改革が、昨年テーマ大統領政権時に達成されております。

我々商工会議所の提言活動で取り組んできたテーマが、こうしてブラジル政府の尽力により少しずつ改善に向かって紐解かれていることを大変うれしく思っております。

一方インフラと産業競争力強化については、まだまだ大きな課題が残されるところではありますが、これらの分野では我々日本の強みを活かし広く連携が出来るものと信じております。

産業競争力強化の分野では日本企業も積極的に取り組んでおり、特に自動車分野では、人材育成や日系中小企業進出の促進などを通じてブラジルサプライヤー企業の競争力強化に関わって参りました。

インフラの分野では日伯インフラ作業部会という政府間の対話枠組み等に積極的に参加し、この度6月開催の会合でも、ブラジルで事業を行う企業とブラジル国民へ広く裨益となるよう、日伯間パートナーシップの強化と官民連携を目指し、日本企業の立場から様々な提言を行っております。

またインダストリー4.0の到来に伴い、この度商工会議所内に「イノベーション研究会」を発足、ブラジルと日本、双方の需要供給の相乗効果により、例えばAgritech、Healthtechといったヒューマンライフの未来を担う農業、健康医療といった重要な分野で今後連携を図っていかねないか研究を行っております。

自由貿易を推進するブラジル現政権ですが、EUとメルコスールの経済連携協定が近々に締結する可能性があるものと聞いております。日本とブラジルについても、将来的には同じような連携が必要となり、我々商工会議所の日本企業会員がブラジルで事業拡大を続けるためにもいずれ不可欠となってくると考えております。

ブラジルの発展に大きく貢献してきた日本移民の活躍に大いに感銘を受けますとともに、我々商工会議所もこの先10年、20年と日本、ブラジル両国の発展に向けてその協力を惜しみません。

ご清聴ありがとうございました！